

バンクーバー第二峽新橋の完成

法學士 小林 尋次

カナダ太平洋海岸に於ける最大の貿易港たるバンクーバー市と世界に其の名高き風光明媚の地に富み且つ將來發展の活氣に富める北バンクーバー、西バンクーバー等の都市の存在する所謂北海岸地方との間には從來渺茫たるブラルド入江^{イニレット}ありて交通上、發展上の不便不利少くなかつたが最近第二

峽(Second Narrows)に新橋架設成りて之等の不便不利は全く除かれてバンクーバー港をして世界有数の大貿易港たらしむるに至つた。其の開通式は昨年十一月七日に盛大に舉行されたが本橋の完成に至る迄には、植民地政府及び州政府からの補助金問題、新道豫定地の買収問題、堤道築造の舊設計案復活問題、橋臺沈下問題等の難問題に悩まされたのであるが、關係當局善く萬難を排して迂餘曲折の後遂に本橋の竣功を見るに至つたのである。

本橋の位置及び構造の大要は左の通りである。

位置 鳥瞰圖に示す如く本橋はバンクーバー市及び北バンクーバー市の中心から夫々約三哩半東方に隔つた地點にてブラルド入江^{イニレット}に架せらる。此のブラルド入江は世界で第

二位を占むる大港であるが本橋の架設に依つてバンクーバー港は其の支關たる北バンクーバー市と密接に連絡せられたる爲めにバンクーバー市は二十哩以上も其の區域を擴張せられたるの觀ありて大港は益々其の偉大さを増した。

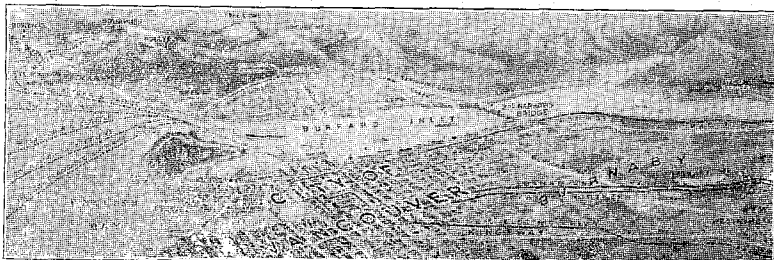
構造

本橋は千九百二十三年九月十二日に工事に着手され、工費百八十萬弗にて千九百二十五年十一月に完成された。其の全長は二千五百九十五呎である。徑間 (Span) は五箇ありて其の中一箇は跳橋式 (Bascule) 移動徑間にして、長百八十五呎、他の四箇は固定徑間にして三百呎のもの一箇、百五十呎のもの三箇である。尙南端に六百五十呎、北端に八百五十呎の構脚橋 (Trestle Work) あり。又北岸に四千五百呎の鐵道用堤道、南岸にカナダ太平洋鐵道の上に架したる六十呎の鐵構桁橋 (Steel span) あり。

本橋は中央に單線鐵道ありて其の鐵道は大陸を横斷する鐵道と、リン、クリーク (Lynn Creek) に達する鐵道とを連絡す尙近き將來に於ては現在北バンクーバー市と西バンクーバー市との間を運轉せる、太平洋岸東部大鐵道とも運

絡するの豫定である。鐵道線路の兩側には十呎幅の一方向のみの車道あり歩道は東側にのみに設けらる。

橋脚 (Pier) は六箇ありて其の中四箇はシリンダー (Cylinder) である。この橋脚の中、深水箇所に設けられた三箇は壓縮空氣工法に依れり。橋脚の中最大のものは No. 1 にして全長百二十呎あり。(水中八十五呎、河底下二十一呎) この長大橋脚は潮流毎時七哩の箇所て工事されたのであつて、かゝる情態の下では程長大なる橋脚を壓縮空氣沈櫃 (Compressed air Caisson) を用ひて設置したことは世界に類



が無い。本橋は最高潮の時でも、橋梁の最下臥材から水面までの間二十二呎二あり。

跳橋は一千噸のコンクリー對衝重 (Counter balance) を具備す。此の跳橋を動かす爲には百馬力の發動機二箇 (中一箇は補助的のもの) を備ふ。尙緊急時用として七十五馬力のエンジンの装置あり。

本橋の保安装置としては先づ特別の白晝燈に依る信號機ありて三、四哩の遠方からでも之を望見し得る。又本橋には數箇の交通門扉 (traffic gate) の設備ありて之等は各々獨立に開閉する様になつてゐるから先づ橋梁に入らうとする交通の流れを止め、其の間に既に橋梁の上にいる交通の流れを渡り切らせて了ふことが出来る。尙交通門扉は跳橋と連絡されてゐるから跳橋が完全に閉ぢて了ふ迄門扉が閉ぢてゐて交通の流れが進むことが出来ぬ様になつてゐる。

財源 本橋の主たる財源は橋梁會社 (The Bridge Company) の株式發行及び社債に依つたのである。其の株主は北バンクーバー市及區 (City district) バンクーバー市、西バ

ンクーバー區 (District) である。其の他に植民地政府から十萬弗州政府から十二萬弗の補助があつた。

◎他山の石

英國人は自治と保守精神の旺盛な事に於て世界に冠たるものがある。ロンドン市民は生粹の英國人だから殊に此の二特徴を豊富に備へてゐる。此事は現在チームズ河に架せられてゐる數多の橋梁の沿革を見ても明瞭である。ウエストミンスター橋を除く凡ての橋梁は何れも初めは私人の企業として架設された。次いで公園體が之を安價に買收し繼て宏壯堅固なものに修繕され又は架換られる經路をとつた。其の架換となると、ロンドン市民は見馴れた橋と永遠に別れる悲しみで萬斛の涙を流さぬ者はない。今チャーター橋を一例として、其の沿革を尋ねて見ると、本橋は一八一一年に私人企業として工事が初められ百萬磅を費して一八一七年チャーター橋職勝第二回記念日に開橋された。一八七七年に、メトロポリタン、ホーアド、オヴ、チークスが四十七萬磅餘之を私人の手より買收し、一八八四年に大修繕が施されたが最近一橋脚が損じたので愈架換の必要を生ずるに至つた時市民は「嗚呼百數年間ロンドンの誇なりし國民的紀念建造物を今や失ふか」と嘆いた有様である。